

第15回 京都大学人文科学研究所
TOKYO 漢籍 SEMINAR

歴史があるから新しい

古いけれども古びない

漢字と情報

漢字の字符

戒肆庵読裘記之一

京都大学人文科学研究所教授

浅原達郎

漢字の知識表現

字書と用例とコンピューターと

京都大学人文科学研究所助教

守岡知彦

AIによる
漢文の文法解析

京都大学人文科学研究所教授

安岡孝一

2020年3月16日[月] 10:30 - 16:00 **聴講無料・要申込**

会場 / 学術総合センター内 一橋大学一橋講堂中会議場
(千代田区一ツ橋 2-1-2)

聴講ご希望の方は、右記URLのフォームからお申し込みいただくか、「漢籍セミナー申し込み」と明記し、氏名・連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)をご記入の上、ハガキまたはE-mailでお申し込みください。**[3月6日(金)17:00必着]** 受講票(ハガキ)をお送りいたします。(2月下旬から順次発送)

京都大学人文科学研究所
附属東アジア人文情報学研究中心

〒606-8265 京都市左京区北白川東小倉町 47

E-mail kanseki-tokyo@zinbun.kyoto-u.ac.jp

URL http://www.kita.zinbun.kyoto-u.ac.jp/2020_kanseki_tokyo

○詳しくは裏面をご覧ください。

第15回 京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢籍 SEMINAR

漢字と情報

●今回の概要

東アジアにおける漢籍文化の根底を支えているのは、漢字という文字の存在です。漢字が集まることで漢語となり、漢語が集まることで漢文となり、漢文が集まることで漢籍となるのです。では、漢籍は、単なる漢字の集まりなののでしょうか。いいえ、そうではありません。漢字の集まり方や、漢語の並び方には、それぞれ意味があるのです。漢語が持つ情報の量は、その漢語を構成する各部分の情報を足しあわせたものより、はるかに大きなものとなります。単なる和集合ではありません。同様に、漢文が持つ情報量は、各漢語の情報量を足し合わせたものより、はるかに大きなものとなります。漢字の集まり方や並び方の中にも、情報があるのです。

漢字の中には、どのような情報があるのか。そして、漢字が並ぶことで、どのような情報が表されるのか。今回のセミナーでは、その一端をお伝えしたいと思います。

●参加定員／200名(申し込み順)

*定員を超えた場合はお知らせします。

●申し込み期限／3月6日(金) 17:00 必着

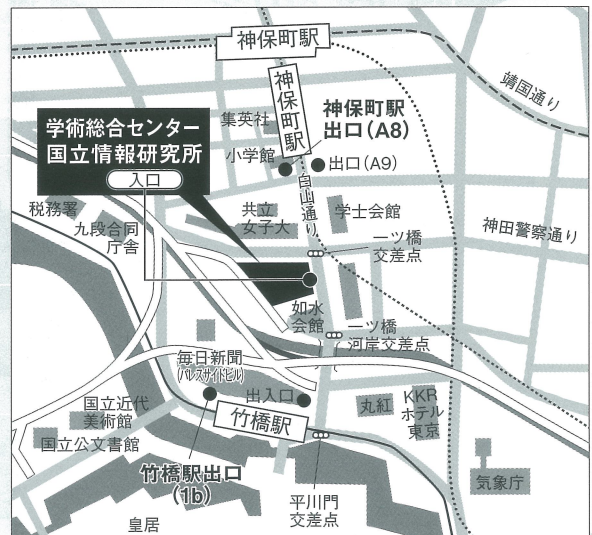
*申し込みの詳細は表面をご覧ください。

●プログラム

時間	種別	内容	講師
10:30~10:45	◎開会挨拶	東アジア人文情報学研究センター長	稲葉 穰
10:45~12:00	◎講 演	漢字の字符——戎肆庵読叢記之一	京都大学人文科学研究所 教授 浅原達郎
12:00~13:10	◎休 憩		
13:10~14:25	◎講 演	漢字の知識表現——字書と用例とコンピューターと	京都大学人文科学研究所 助教 守岡知彦
14:25~14:40	◎休 憩		
14:40~15:55	◎講 演	AIによる漢文の文法解析	京都大学人文科学研究所 教授 安岡孝一
15:55~16:00	◎閉会挨拶		

*講演時には質疑応答時間を含みます

●会場／学術総合センター内(千代田区一ツ橋2-1-2) 一橋大学一橋講堂中会議場



■会場への交通機関

- ・東京メトロ半蔵門線 都営地下鉄三田線・新宿線 「神保町駅」A8出口より徒歩5分
- ・東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩5分
- 都営新宿線
- 都営三田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東京メトロ東西線
- 高速道路